

いきもの記

Vol.118 2024.9.11

1年2組 濱田 琉生
(科学研部生物化学班・昆虫研究)

西表島特集⑤ 日本にもサソリがいるんです！

ヤエヤマサソリ

こんにちは。前号の中でキンカメムシを持ってダッシュしていたルイです。初めていきもの記を書かせていただきます。

さて、皆さんは「サソリ」にどんなイメージを持っているだろうか。多くの人は**毒**があって**危ない**とか**キモい**とかいうイメージなのではないだろうか…。そこで僕は、とあるサソリを紹介したい！それは**ヤエヤマサソリ**！意外かもしれないが、実は**日本には2種類のサソリ**がいて、ヤエヤマサソリはその名の通り日本の中でも西表島をはじめとする八重山諸島や宮古島などに生息している。

僕がこのサソリと出会ったのは西表島フィールドワークの2日目、石垣島で西表行きのフェリーを待っている時だった。長年の憧れであるヤエヤマサソリを求めブラックライトを片手に樹皮の裏側を照らしながら、**変態のような格好※1**で樹皮の裏側を舐めるように見ていくと、きらりと光る青白い輝きが目に入ったのだ！恐る恐る光った樹皮を慎重にゆっくりと剥がして行くと、そこにはブラックライトで照らされ**神々しく青白く光る3cm程度のかっこいいサソリの姿**がはっきりと見えたのだ！（サソリは、理由は不明だが紫外線を浴びると光る。それを見たくてブラックライトを持参した。）僕はそれを見た瞬間『**サソリだ！サソリだあああ！**』とあまりの嬉しさに叫んでしまったことが鮮明に記憶に残っている。その1匹の発見を境にたくさんのサソリが見つかり、僕は興奮が1日中収まらなかった。我が家ではそのうちの2匹を飼育をしている。やはり生き物は飼育してみないと分からないことがたくさんあると感じた。1番驚いたことは、このサソリは**とてつもなく瞬足**だということだ！奴らは恐ろしいほどのスピードで25cmの飼育ケースを5秒で端から端まで移動をするという驚愕の事実が発覚した！なお、餌やり時にこの瞬足で脱走され、捕獲に2時間かかった（笑）。

実は先日、興味本位でこのサソリに刺されてみたのだが※2、全くといって痛みを感じなかった（良い子も悪い子もそうで無い子も真似しないでね。毒の効き目は人によって変わることがあります）。

皆さんも森や林などに入る際はブラックライトを持っていてみてはどうでしょうか？僕のように素晴らしい出会いが待っているかもしれません。なお八重山諸島には日本在来のキョクトウサソリ科、別名ウシコロシサソリ科の**マダラサソリ**も生息しているが、そちらはキョクトウサソリ科全種が特定外来生物に指定されてしまったため、日本の在来種なのに飼育もできなければ外来種扱いもされている。また、人が刺されるとヤエヤマサソリと違い普通に痛いらしいので、もし八重山諸島に行くことがあり、彼らを見かけたならばそっとしてあげてほしい。



石垣島でつけたヤエヤマサソリ

日本にはこのヤエヤマサソリとマダラサソリの2種類のサソリが生息している。



左のサソリにブラックライトを当てた様子

7/27 佐藤龍撮影
多くのサソリは紫外線を当てると青く光る。理由は分かっていない。



我が家で飼育しているサソリの捕食シーン

9/7
ワラジムシを捕まえて食べている。かわいい！



石垣島でサソリを探している様子

7/27
サソリは木の樹皮の隙間に潜んでいる。

※1 教員注：どんな格好？と聞いたら、「股を開いて腰を落とし、ブラックライト片手に樹皮を凝視する姿」と目の前で再現してくれた。

※2 教員注：ヤエヤマサソリの毒性は非常に弱く、無毒と言っても良いくらいであることが分かっている。毒針も非常に小さく人間の皮膚を貫くのが難しいくらいである。